

第六章

結論

第6章 結論

6 - 1 本研究の結論

本項では、バイオマスタウン構想公表市町村におけるバイオマスタウン事業の計画内容と実施状況に関する研究についての結論を述べる。

6 - 1 - 1 目的ごとの結論

本研究の目的は、現在公表されているバイオマスタウン構想書の内容と照らし合わせ、参加市町村において、本事業が計画通りに進んでいるかどうかを明らかにすること。各市町村の構想書より、事業計画の内容や公表されているデータにおける疑問点をあげ、各市町村にアンケート調査を行い、疑問点を明らかにする。の2点である。

はじめに、目的 について、構想書の内容と、各市町村から送っていただいたアンケートの回答を照らし合わせた結果、資金面において問題があり、計画通りに事業が進んでいないという回答が多かった。

また、資金不足に絡んで、事業を進めるための施設を稼働できない、もしくは、稼働することは可能だが、これから先施設を稼働し続けることを考えると、稼働し続けるための資金を得ることができず、結局事業が停滞してしまうことになるという現状も確認できた。

それに加え、バイオマスを回収し、処理施設を稼働させて商品を製造したが、製造した商品の製造コストと、商品の売価との間で採算があわないことや、製造した商品の需要と供給が成り立たなくなってしまうために事業計画の見直しを行なっている市町村もあった。

上記のような、経済面での問題とは別に、市町村合併や地震などの自然災害によって計画の見直しや、停滞がおこっている市町村もあった。

よって今後は、経済面における問題点を解決するために、各市町村では民間企業と協力し、お互いに支えあって事業を展開していく必要があるのではないかと思った。特に、行政だけで事業を進めている市町村は、バイオマスを有効利用するための新技術の開発や、設備の充実といった面において、国からの補助だけでは限界があると考えられるため、もう一度計画を見直すことも必要なのではないだろうか。

またバイオマスの有効利用についても、手広くやっていると資金や施設の面で問題が生じるため、当面は数を絞って取り組んだ方が良いのではないかと思う。もしくは、近隣の市町村と協力し、バイオマスの処理を分担して行ない事業を進めていくことも、効果があるのではないかと思った。

現時点では、経済的な問題が発生することや、事業を開始してから時間が経過していない市町村が多いといった理由から、計画通りに進行している市町村は少ないため、本事業の良い例となる結果は導き出せなかった。

数年後には、本事業が計画通りに進行し、良い結果が出ている市町村が出てくると考えられるため、バイオマスタウン事業の研究を進めるにはもっと時間が必要だと思った。

続いて、目的の に関して、アンケートの結果から、構想書には記載されていないデータが手に入った。入手したデータの中には、目的 で取り扱った事業の進捗状況に関する内容のほか、本事業に参加することによって地域の経済や地球環境に与える影響などの内容がわかるものがあり、今後本事業に参加する市町村にとって多少役に立つ内容になると考えられる。

本事業に参加することによる、地域の経済に対する影響として、新施設の建設による観光客の増加や、新事業の開拓による雇用の拡大などが挙げられる。

しかし、観光客を集めるためには施設の整備が必要となるが、そのためには多くの資金が必要となる。資金面での問題で事業が進んでいない市町村にとって設備を充実させることは困難であると考えられる。また、設備を整えることができたとしても、認知度が高くなければ集客はできず、地域経済の活性化にはつながらない。

地域経済の活性化を行なうためには、雑誌への掲載やテレビの取材を受けるなど、大きな宣伝を行なうことが望ましいが、104 もの参加市町村があるため全ての市町村で大きな宣伝を行なうということは難しい。

そこで、まずバイオマスについての認識を社会に広めるためにバイオマス・ニッポン総合戦略推進会議は、バイオマスタウン事業に関する宣伝を行なうべきであると思う。バイオマスタウン事業に関する情報を社会に流すことで、地域住民の事業に対する関心を高めることができれば、本事業に参加する民間企業も増え、資金面や施設面で起こっている問題の解決につながると考えられ、地域経済の活性化も達成できるだろう。

また、雇用の拡大についても新事業を開拓することで雇用枠が増加し、地域の活性化につながっていくと考えられるが、雇用を拡大すると人件費がかかってしまうため、簡単には雇用の拡大を行なうことができないと考えられる。そうなるとやはり問題となってくるのは、資金面での問題である。資金面での問題をクリアするにはやはり、上記のように国が宣伝を行い、本事業自体を活性化させることが必要だと考えられる。

よって本事業を効率よく進行させるために、各市町村が目標の達成に向けて努力することはもちろん、国も資金面の援助だけでなく、多方面でバックアップを行い、市町村と国が協力して事業を成功させることが必要であると思った。

以上が各目的に対する結論である。

6 - 1 - 2 本研究全体のまとめ

本研究の目的は、現在公表されているバイオマスタウン構想書の内容と照らし合わせ、参加市町村において、本事業が計画通りに進んでいるかどうかを明らかにすること。各市町村の構想書より、事業計画の内容や公表されているデータにおける疑問点をあげ、各市町村にアンケート調査を行い、疑問点を明らかにする。の2点である。

現在、どの市町村においてもバイオマスタウン事業は、始まったばかりであり、大きな成果は出ていない。それどころか、事業を開始したものの経済面等で問題が発生し、計画

自体的見直しを行なっている市町村もある。

序論でも述べたように、バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議では平成 22 年に 300 市町村の本事業への参加を目指しているが、現状のままでは目標を達成できないと考えられる。仮に、参加数の目標を達成できたとしても、中身が伴っていない事業になってしまうかもしれない。そのような自体を避けるために、国は参加する市町村の数を絞って、内容の濃い事業を展開していく方針に変えた方が良い結果が出せるのではないかと考えられる。

とはいえ、各市町村でのバイオマスタウン事業はまだ始まったばかりなので、これから先、事業がうまく軌道に乗り、目標を達成できる市町村がでてくるかもしれない。

多くの市町村が事業目標を達成できるように、各市町村では住民の協力と、国からの補助を得て事業を展開し、国は各市町村の事業が円滑に進むよう援助を行い、一丸となって事業に取り組んでいくべきであると思う。

これから先、本事業が多くの市町村で実施され、良い結果を出すことによって、環境問題やエネルギー資源不足の問題の解決の糸口になると考えられるため、現在、本事業に参加されている市町村は、これから参加する市町村の見本となるように、事業に取り組み、良い結果を出していただきたいと感じた。

6 - 2 今後の課題

本研究の今後の課題として、アンケートを行なった市町村に加え、その後新たに本事業に参加した市町村に対してアンケート調査を行い、今回の結果よりも詳細な進捗状況を明らかにすることが挙げられる。

また今回のアンケートの内容に関して、質問項目の説明が不十分であるという点や、深く掘り下げることによって、現状を明らかにすることのできる質問がなかったため、事業の現状を明らかにすることを目的としたアンケートとしては不十分なものであると感じた。今後は回収したアンケートを基に、市町村ごとに掘り下げた質問を行い、より詳細な現状を報告していくべきであると感じている。